

共働き家庭の時間的貧困に関する調査研究

【代表者】

杉田菜穂 大阪市立大学 経済学研究科 准教授

【共同研究者】

安達智子 大阪教育大学 教育学部 准教授

淵上ゆかり 大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 特任助教

(平成 30 年 10 月 1 日より参加)

【研究概要（申請書より抜粋）】

女性のフルタイム労働者の増加に伴って、共働き家庭の時間的貧困が浮き彫りになっている。その背景の一つとして、仕事と家族的責任の両立について個々人の努力が迫られるなか、両立支援策には働き方の多様化に伴う長い通勤時間や、配偶者との望まない別居婚といった課題が視野に入っていないことが指摘される。この問題について先進的なアメリカや国内でも検討、取り組みがはじまって間もない。よって、本申請による研究では共働き家庭を営む人々の抱える時間的貧困の実態、および彼らが勤務する組織における取り組み経緯などを含め、聞き取り調査によって改善に向けた課題を明らかにする。

本申請で連携する3者の研究上の専門分野はそれぞれ異なるが、ワーク・ライフ・バランスに対する問題意識を共有している。本申請による共働き家庭の時間貧困に関する調査活動とその成果の共有を機に、大阪教育大学－和歌山大学－積水ハウス株式会社－大阪市立大学のワーク・ライフ・バランス研究ネットワークの形成につなげたい（次年度への展開を検討している）。

なお、研究代表者は公式・非公式に女性研究者支援に積極的に取り組んでいる大学の取り組み状況の把握に努めてきた。研究代表者については、次年度への展開を意識して、女性活躍×両立支援策の関係づけによる女性のキャリアアップについての方法論的考察と女性活躍×両立支援策の関係づけが進んでいる機関への聞き取りに力を入れる。それにより、本申請による成果が、大阪教育大学－和歌山大学－積水ハウス株式会社－大阪市立大学のダイバーシティ雇用環境の実現や女性活躍に寄与するものとなるように努めたい。

【研究成果（報告書より抜粋）】

杉田・安達・渕上：

大阪市立大学女性研究者支援室が実施した「研究者の職場環境整備に向けた実態調査」（2018年）を大阪教育大学、和歌山大学を対象に実施した。調査は大阪市立大学、さらには大阪教育大学と和歌山大学の担当者の協力を得ながら杉田・渕上が中心的となって実施し、安達は大阪教育大学版調査の質問項目のチェックを行うなどした。また、調査実施の前に3者で大阪市立大学版の調査結果についての意見交換を行った。

3大学で同じ調査を実施した結果、性別で回答に差が大きい項目とほとんどない項目や各大学の特徴について把握することができた。結果の一部は研究論文「研究者の職場環境整備に向けた実態調査：大阪市立大学と大阪教育大学の結果について（杉田・渕上2019）」において公表し、研究者のワーク・ライフ・バランス(WLB)の一事例として広く活用されるようにしたことで、他組織のWLB支援の一助になることが期待される。

杉田：

「ジェンダー研究機関の 過去・現在・未来」（2019/1/11名古屋大学）に出席し、大学における女性学教育の歩み、女性学教育と近年の女性活躍政策との関連づけについていくつかの気づきを得た。予算の関係でこの課題については十分な活動ができなかったが、引き続き取り組んでいる。

安達：

企業・行政機関において人事管理的立場にある者を対象として聞き取り調査を行い、時間的貧困問題の現状と問題解決の方向性をさぐった。また、関連学会に参加をして、働きやすい職場風土の醸成やキャリアデザイン、時間配分の在り方、それらにまつわる個人の心理的要因について情報収集をするとともに、予備的成果を学会で発表した。

研究業績

※助成期間中に本研究課題を基に発表した著書、学術論文、学会発表、報告書等

著書名/論文名/発表タイトル 等	発表年	出版社名/掲載雑誌名/学会名等
杉田菜穂・渕上ゆかり 「研究者の職場環境整備に向けた実態調査：大阪市立大学と大阪教育大学の結果について」	2019年	大阪市立大学経済学会 『経済学雑誌』
Tomoko Adachi “The Time Poverty of Japanese Working Parents”	2018年	日本キャリア教育学会第40回研究大会発表論文集